



ひえ・あわなど  
と発芽玄米を混  
ぜ合わせた雑  
穀ミックス

比内地鶏加工  
商品ブラッシ  
ユアップ事業

平成20年度に『北秋田市提案公募型特産品活性化推進事業』で認定を受けた特産品の成果報告会が5月12日、北秋田市交流センターで行われました。

この事業は、市内で産出される原材料や資源等を活かし、創意工夫により特産品の創出した事業者を支援することにより、地域活性化を図ることを目的とするもので、平成18年度から実施されており、これまで7社が認定を受けています。

成果品報告会は、認定事業者から事業実施の背景から現在の状況を聞き、事業成果を確認するとともに、商

## 地元素材を活かした特産品を消費地へ

北秋田市提案公募型特産品活性化推進事業認定品成果報告会

品のPRを兼ねて開かれたものです。

雑穀栽培による商品化と地域再生に取り組んだ(株)くまがい卵油研究所(熊谷良一 所長)と地元特産品の比内地鶏を活用して、比内地鶏加工商品ブラッシュアップ事業」を実施した(株)佐葉館本舗 北林智代表)の2法人が商品開発の成果を報告しました。

くまがい卵油研究所は、2つの転作田を利用し、ひえ、あわ、南米アンデイス原産のアマランサスなどを栽培し、これに発芽玄米を混ぜ合わせた、雑穀ミックス」を製品化した。最近では定期購買者も増えているとの報告がありました。

また、佐葉館本舗の北林代表は、比内地鶏を素材とした食文化を全国に広げることが出来ないかと思ひ、商品の創作に取り組んできた。ホームページの作成、首都圏等で試食会を開催し、販路を拡大したいとの強い意欲を述べました。

この後、商品の試食会に移り、商品を試食した関係者は、味・無農薬、無添加の安全・安心を売りとするコンセプトなど消費者ニーズにマッチしており今後の商品の販路の拡大に期待していました。

## 魅力ある特産品の開発等に助成します

平成21年度 北秋田市提案公募型特産品活性化推進事業

### 事業の目的

本市の原材料を使った資源等を活かし、意欲がある団体若しくは個人の創意工夫、異業種との連携等を通しての魅力ある特産品の創出及びその他地域振興が期待できる事業提案を広く公募し、その事業の展開を支援することにより、本市の地域活性化を図る。

事業実施期間 平成22年3月31日(水)まで

申請期日 平成21年6月30日(火)まで

認定委員に特産品の  
特徴などを説明する  
プレゼンテーション  
の様子



申請書類 事業認定申請書 / 事業計画書 / 事業収支予算書 / その他

### 補助対象経費

新規特産品開発、既存特産品の改良に係る費用  
謝金 / 旅費 / 研究開発費(原材料費・機械装置等  
整備費・借上料・外注加工費・試験調査手数料等)  
/ 事務費(印刷製本費・通信運搬費・調査研究費・  
広告宣伝費・消耗品費・パッケージ等のデザイン  
料) / 委託費 / その他市長が認める経費

補助率 補助対象経費の1/2

補助金上限額 500千円

### プレゼンテーション審査

審査日:平成21年7月中旬

審査場所:市役所森吉庁舎2階会議室

審査員:北秋田市特産品推奨認定委員

### お問い合わせ

産業部商工観光課商工労働班 ☎72-3112

## 叙勲受章おめでとうございます

政府は4月29日、平成21年春の叙勲受章者を発表しました。北秋田市からは、地方自治功労で元北秋田市議会議長の清水修智さん。金融業功労で秋田県信用組合理事長の三浦武さんがそれぞれ「旭日双光章」を受章。児童福祉功労で元北秋田市七日市保育園長の山城京子さんが「瑞宝単光章」を受章されました。



清水 修智さん  
(七日市・75歳)

- 地方自治功労 -

旭日双光章



三浦 武さん  
(松葉町・70歳)

- 金融業功労 -

旭日双光章



山城 京子さん  
(七日市・71歳)

- 児童福祉功労 -

瑞宝単光章

昭和43年に鷹巣町議会議員に初当選以來、北秋田市誕生まで連続11期、38年間にわたり町議・市議を務め、地方自治発展のため貢献しました。

平成15年からは、鷹巣町議会議長として4町の合併に向けて尽力し、新市誕生に導きました。北秋田市誕生後は、初代市議会議長として、在任特例による旧4町議員71人の先頭に立ち適切な議会運営に努めました。

また、平成元年から10年間は、空港建設促進特別委員会の委員長として、空港の早期実現のために、年間数十回も上京して関係省庁に陳情し、早期建設・開港に尽力しました。

受章について、「非常に重みを感じてい

る。38年間議員として務めたが、支えてくれた地域の方々のおかげ。今後も恩返ししていきたい。妻(満さん)にも苦勞をかけた。大変感謝している」と周囲の皆さんへ感謝の気持ちを語る清水さん。

現在は、水田10畝を耕作。弟の智司さん、長男の繁明さんと汗を流しながら、農業に従事しています。

昭和33年に地元の経理事務所に勤務後、家業の三浦巧美舎に入社。昭和53年に北秋田信用組合の非常勤理事となり、その後秋田県信用組合常務理事、平成15年から理事長となり、一貫して地域の利益となる金融経営に務めました。

平成2年には、秋田商工信用組合、北秋田信用組合、鹿角信用組合を一本化し、県信用組合の誕生に導き、更に平成15年の大館信用組合との合併に尽力しました。

受章について、「夢にも思っていなかった。何でもらえたのか、それだけの功績があつたのかと考えた。理事や役員を長くやってきたからではないかと思う」と喜びを語りました。

現在も、秋田県信用組合のトップを務める三浦さんは、「世の中が変わっても、われわれの業界は地域の皆さんと一体である事実は変わらない。時代の変化に適切に対応するためには人材育成が何より大切。優秀な人材が育てば、職場が育つ。そうなれば、時代に翻弄されない足腰の強い企業となる」との経営信念のもと活躍されています。

山城さんは、昭和38年に七日市保育園に採用。平成元年から同園の園長を務め、保育園を多くの人たちに理解していただくため、未就園児とその親を保育園に招く「なかよしクラブ」を設立。地域に密着した保育園の浸透を図りました。

また、今では七日市の名物となっている保育園の夏祭りや打ち上げられる花火師による花火も、山城さんが地域と関わる保育活動の一環として始めたものです。37年間にわたり乳幼児保育にかかわり、地域に根ざした保育園運営に尽力し、児童福祉の向上に寄与しました。

山城さんは、「立派な章をいただき本当にありがたい。子どもたちや地域の方々、同僚、家族等多くの人の支えがあつて、長く務めることができた。心から感謝したい」と受章の喜びと周囲の方々へ感謝の気持ちを語りました。

現在も、時々保育園に顔を出し、子どもたちの笑顔から元気をもらっています。また、七日市婦人会長、鷹巣町農協女性部七日市支部長などを務められており、地域の発展のために活躍しています。